図　ボーリング地質調査・測量基準点位置図

ボーリング柱状図

調　査　名　新日明かんびん資源化センター地質調査及び測量業務委託

ボーリングNo										

事業・工事名

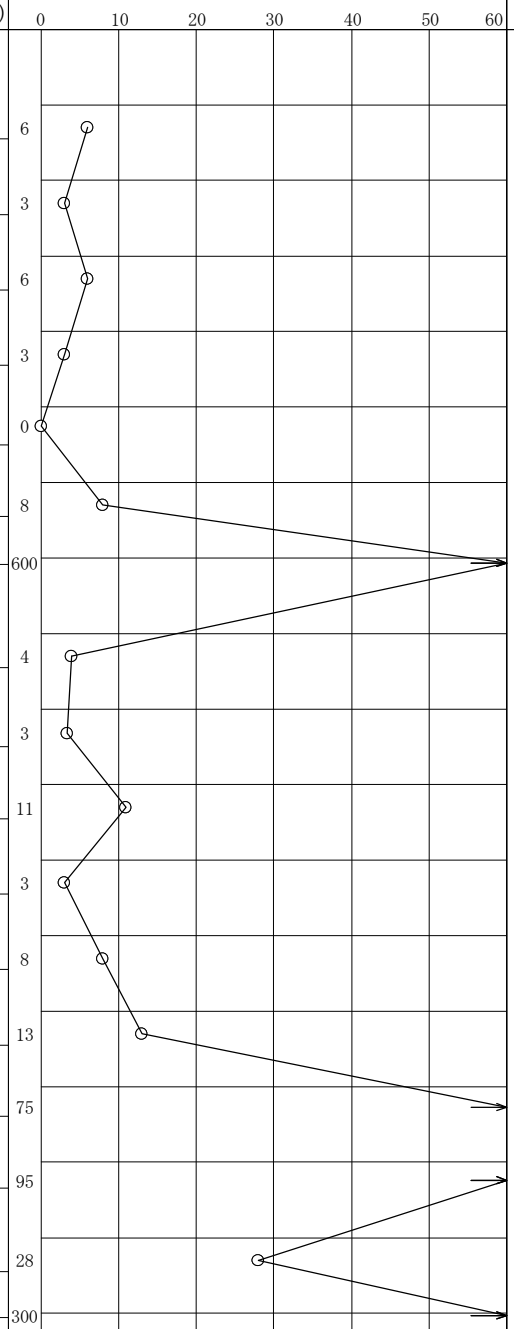
シートNo

ボーリング名	No.1	調査位置	福岡県北九州市小倉北区西港町97番地の3							北緯	33° 54' 55.9"
発注機関	北九州市環境局			調査期間	平成 29年 2月 18日 ～ 29年 2月 21日					東経	130° 52' 15.1"
調査業者名	株式会社協和コンサルタンツ北九州営業所 電話（093-663-1686）	主任技師	中村　学	現場代理人	小林壽夫	コア鑑定者	小林壽夫			ボーリング責任者	伊藤誠一
孔口標高	2.72m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	東邦地下工機製　D0-C型	ハンマー落下用具	半自動型
総掘進長	17.00m								エンジン	ヤンマー製　NFD-10型	ポンプ	東邦地下工機製　BG-3C型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1 2 3	-0.88	3.60	3.60		埋土・礫混り砂	褐灰～黄褐灰	非常に緩い～緩い		0.0～1.8mは褐灰色の細砂主体で、径10～20mmの亜円礫～亜円礫を混入する。 1.8～2.6mは黄褐灰色の細砂～中砂で、径10mm以下の亜円礫を混入する。 2.6m以深はシルト混り細砂で、径10mm以下の亜円礫を混入する。	2/20 2.40
4	-1.68	0.80	4.40		埋土・シルト混り砂	暗灰	非常に緩		細砂主体で含水比が高く、貝殻片を混入する。	
5	-2.78	1.10	5.50		埋土・シルト	暗灰		非常に軟	均質なシルトで細砂の薄層を挟む 非常に含水比が高く軟弱である。 径10～20mmの角礫をわずかに含む	
6 7	-5.08	2.30	7.80		埋土・シルト混り砂礫	暗灰～黒灰	緩い		径10～40mmの亜角礫とシルト混り細砂からなる。含水比が高い。 全体的に礫が多く、5.5～6.0m、7.0m以深には径50～100mmの硬質礫を混入する	
8	-5.98	0.90	8.70		砂質シルト	暗灰		軟らかい	細砂を含むシルトで、含水比が非常に高い。 貝殻片、径5mm以下の円礫を含む	
9 10 11	-8.48	2.50	11.20		礫混り砂	褐灰	非常に緩い～中位		中砂～粗砂で、径5～30mmの円礫を混入する。 貝殻片を混入する。 非常に含水比が高い。	
12	-9.38	0.90	12.10		シルト	暗灰			均質なシルトで、上部には細砂の薄層を挟む。貝殻片を混入する。 含水比が非常に高く軟弱である。	
13	-10.18	0.80	12.90		礫混り砂	褐灰	緩い		シルト混り細砂で、径10～30mmの亜角礫を混入する。	
	-11.08	0.90	13.80		強風化頁岩	淡黄褐			風化が著しく粘土化が進み、固結シルト状コアで採取される。 コアは指圧で破砕できる。	
14 15	-12.98	1.90	15.70		風化頁岩	暗褐			軟質な短柱状コアで採取されるがハンマーの軽打で破砕できる。 全体に暗褐色を呈し、多少炭質である。	
16	-14.08	1.10	16.80		強風化頁岩	淡褐			風化が著しく粘土化が進み、固結シルト状コアで採取される。 軟質で、指圧により破砕できる。	
17	-14.28	0.20	17.00		頁岩	暗灰			やや硬質な短柱状コアである。	

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	2	2	6／30	6
1.45 2.15	1	1	1	3／30	3
2.45 3.15	2	2	2	6／30	6
3.45 4.15	1	1	1	3／30	3
4.45 5.00	モンケン自沈			0／50	0
5.50 6.15	2	3	3	8／30	8
6.45 7.05	60／3			60／3	600
7.08 8.15	2	1	1	4／30	4
8.45 9.15	1	1	2／15	4／35	3
9.50 10.15	3	4	4	11／30	11
10.45 11.15	1	1	1	3／30	3
11.45 12.15	2	3	3	8／30	8
12.45 13.15	4	4	5	13／30	13
13.45 14.15	13	26	21／4	60／24	75
14.39 15.15	24	36／9		60／19	95
15.34 16.15	8	9	11	28／30	28
16.45 17.00	60／6			60／6	300
17.06					



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）
3.15	P1-1	Ⓟ	粒度
4.15	P1-2	Ⓟ	粒度
6.15	P1-3	Ⓟ	粒度
9.15	P1-4	Ⓟ	粒度
12.15	P1-5	Ⓟ	粒度

掘進月日

2/18
2/20
2/21

ボーリング柱状図

調　査　名　新日明かんびん資源化センター地質調査及び測量業務委託

ボーリングNo										

事業・工事名

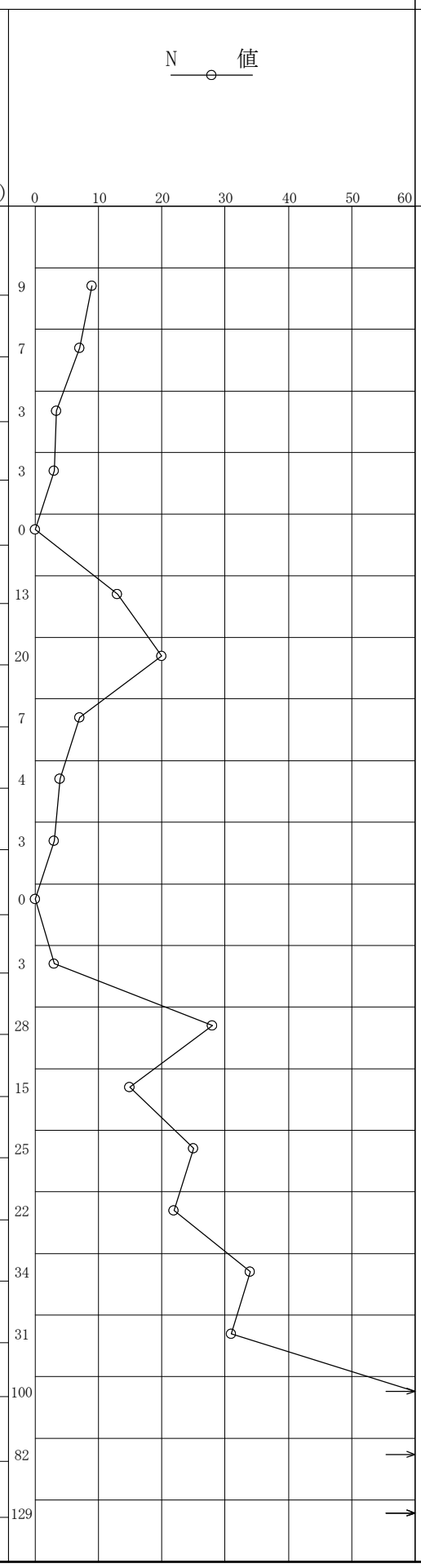
シートNo

ボーリング名	No.2	調査位置	福岡県北九州市小倉北区西港町97番地の3							北緯	33° 54' 57.2"
発注機関	北九州市環境局			調査期間	平成 29年 2月 16日 ～ 29年 2月 18日					東経	130° 52' 18.4"
調査業者名	株式会社協和コンサルタンツ北九州営業所 電話（093-663-1686）	主任技師	中村　学	現場代理人	小林壽夫	コア鑑定者	小林壽夫			ボーリング責任者	伊藤誠一
孔口標高	2.80m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	東邦地下工機製　D0-C型	ハンマー落下用具	半自動型
総掘進長	21.00m								エンジン	ヤンマー製　NFD-10型	ポンプ	東邦地下工機製　BG-3C型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1 2	0.00	2.80	2.80		埋土・礫混り砂	黄褐灰	緩い		花崗岩質の細砂～中砂で、径5～20mmの亜円礫を混入する。	2/16 2.80
3	-0.90	0.90	3.70		埋土・砂	黄褐灰	非常に緩		細砂主体で、やや含水比が高い。貝殻片を混入する。	
4	-2.10	1.20	4.90		埋土・シルト混り砂	暗灰			細砂～極細砂でシルトを含む。貝殻片を混入する。	
5 6	-3.30	1.20	6.10		埋土・砂質シルト	暗灰		非常に軟	極細砂を含み、細砂の薄層を挟む含水比が非常に高く軟弱である。	
7	-5.00	1.70	7.80		埋土・シルト混り砂礫	暗灰	中位		砂分はシルト混り細砂で含水比が高い。礫は7m付近までは径10～30mmの亜角礫、7m以深は径10～50mmの円礫である。	
8 9	-7.10	2.10	9.90		礫混り砂	暗灰	緩い		9m付近まではシルト混り細砂～中砂で、径5～10mmの亜円礫・貝殻片を混入する。シルトの薄層を挟む。9m以深はシルト混り中砂～粗砂で径10～20mmの亜角礫を混入する。全体に含水比が高い。	
10 11	-9.10	2.00	11.90		シルト	暗灰		非常に軟～軟	均質なシルトで、貝殻片を混入する。含水比が高い。所々に細砂の薄層を挟む。上部にはサンドパイプが見られる	
12	-9.90	0.80	12.70		シルト質砂	暗灰	非常に緩		細砂主体で、シルトを多量に含み径10mm以下の亜角礫を混入する。含水比が高い。	
13	-11.10	1.20	13.90		シルト混り砂礫	褐灰	中位の		シルト混り細砂と径10～30mmの亜角礫からなる。含水比が高い。13.8m付近には径10cm大の硬質な玉石を混入する。	
14 15 16 17 18	-16.00	4.90	18.80		強風化頁岩	黒灰～灰			風化が著しく粘土化が進み、固結シルト状コアで採取される。指圧で容易に破砕できる。所々に風化残留部が、5～10cmの短柱状コアで残る。15m付近までは黒灰色の炭質頁岩である。	
19 20 21	-18.20	2.20	21.00		風化頁岩	灰			5～10cmの軟質な短柱状コアで採取される。ハンマーの軽打で破砕できる。	

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	3	3	3	9/30	9
1.45 2.15	3	2	2	7/30	7
2.45 3.15	2	1/15	1	4/35	3
3.50 4.15	1	1	1	3/30	3
4.45 5.00	モンケン自沈			0/50	0
5.50 6.15	3	5	5	13/30	13
6.45 7.15	8	7	5	20/30	20
7.45 8.15	2	2	3	7/30	7
8.45 9.15	2	1	1	4/30	4
9.45 10.15	1	1	1	3/30	3
10.45 11.00	モンケン自沈			0/50	0
11.50 12.15	1	1	1	3/30	3
12.45 13.15	10	10	8	28/30	28
13.45 14.15	5	5	5	15/30	15
14.45 15.15	6	8	11	25/30	25
15.45 16.15	6	7	9	22/30	22
16.45 17.15	8	11	15	34/30	34
17.45 18.15	7	10	14	31/30	31
18.45 19.15	29	31/8		60/18	100
19.33 20.15	17	33	10/2	60/22	82
20.37 21.15	40	20/4		60/14	129
21.29					



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）
3.15	P2-1	Ⓟ	粒度
4.15	P2-2	Ⓟ	粒度
6.15	P2-3	Ⓟ	粒度
9.15	P2-4	Ⓟ	粒度
12.15	P2-5	Ⓟ	粒度

掘進月日

2/16　2/17　2/18

ボーリング柱状図

調　査　名　新日明かんびん資源化センター地質調査及び測量業務委託

ボーリングNo										

事業・工事名

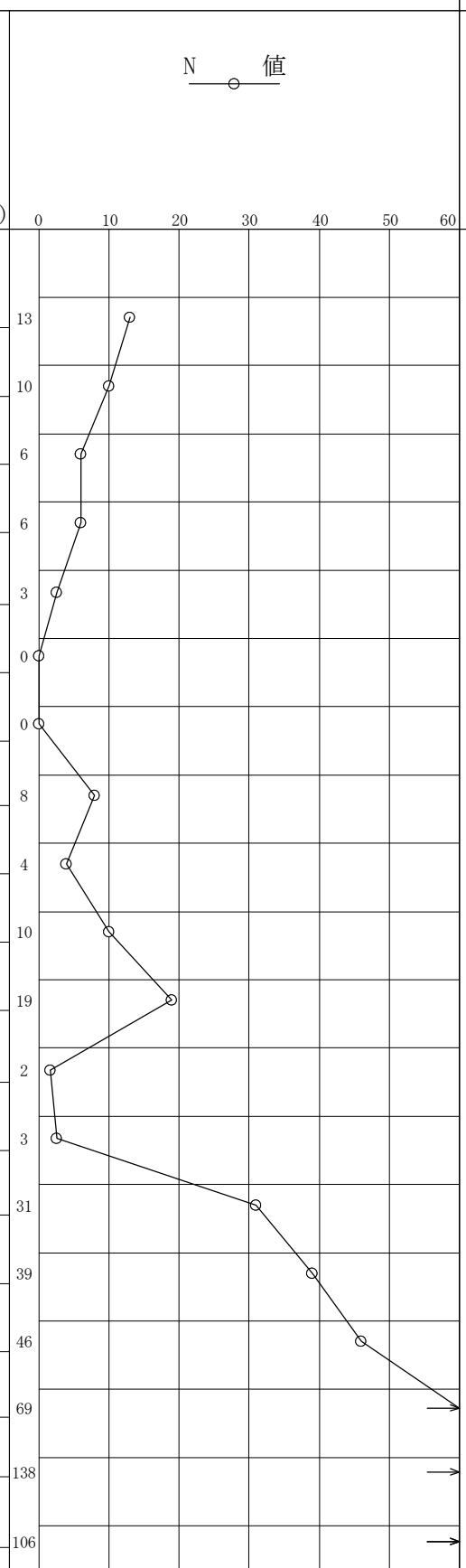
シートNo

ボーリング名	No.3	調査位置	福岡県北九州市小倉北区西港町97番地の3							北緯	33° 54' 55.2"
発注機関	北九州市環境局			調査期間	平成 29年 2月 25日 ～ 29年 2月 27日					東経	130° 52' 16.2"
調査業者名	株式会社協和コンサルタンツ北九州営業所 電話（093-663-1686）	主任技師	中村　学	現場代理人	小林壽夫	コア鑑定者	小林壽夫			ボーリング責任者	伊藤誠一
孔口標高	2.53m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	東邦地下工機製　D0-C型	ハンマー落下用具　半自動型
総掘進長	19.00m								エンジン	ヤンマー製　NFD-10型	ポンプ　東邦地下工機製　BG-3C型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1 2	-0.27	2.80	2.80		埋土・シルト混り砂	褐灰	中位の		細砂主体で、径10～20mmの角礫を混入する。	2/25 2.45
3 4 5	-2.77	2.50	5.30		埋土・礫混り砂	淡褐灰	緩い		花崗岩質のオニマサ状の粗砂で、径10mm以下の亜角礫を混入する 貝殻の細片を混入する。	
6 7	-5.27	2.50	7.80		砂混りシルト	暗灰		非常に軟らかい	極細砂を含む均質なシルトで、非常に含水比が高く軟弱である。 貝殻の細片をわずかに含む。	
8	-6.17	0.90	8.70		砂	暗灰	緩い		花崗岩質の細砂～中砂で、径10mm以下の亜円礫を混入する。 貝殻片を含む。	
9 10 11	-9.37	3.20	11.90		礫混り砂	暗灰～褐灰	緩い～中位		シルト混り細砂で、全般に径5～20mmの亜円礫を混入する。 径30mm大の礫も散見される。 下部にはシルトの薄層を挟み、貝殻片を混入する。	
12	-10.07	0.70	12.60		シルト	暗灰		非常に軟	均質なシルトで、貝殻片を混入する。含水比が高く軟弱である。	
13	-11.27	1.20	13.80		砂質シルト	暗灰		軟らかい	細砂を多量に含むシルトで、含水比が高い。細砂の薄層を挟む。 貝殻片・腐植物を混入する。	
14	-12.17	0.90	14.70		シルト混り砂礫	暗灰	密な		シルト混り細砂と径10～30mmの亜角礫からなる。含水比が高い。	
15	-12.87	0.70	15.40		砂礫	黒灰	密な		細砂と径10～30mmの炭質頁岩・頁岩等の亜角礫からなる。	
16 17	-14.47	1.60	17.00		強風化頁岩	暗灰			全体に風化が著しく粘土化が進み固結シルト状コアで採取される。 コアは指圧で容易に破砕できる。	
18 19	-16.47	2.00	19.00		風化頁岩	暗灰～黒灰			長さ5～15cmの軟質な短柱状～長柱状コアで採取される。 ハンマーの軽打で破砕できる。	

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	3	3	7	13／30	13
1.45 2.15	3	3	4	10／30	10
2.45 3.15	2	2	2	6／30	6
3.45 4.15	2	2	2	6／30	6
4.45 5.15	1	1	1／15	3／35	3
5.50 6.00	モンケン自沈			0／50	0
6.50 7.00	モンケン自沈			0／50	0
7.50 8.15	2	3	3	8／30	8
8.45 9.15	2	1	1	4／30	4
9.45 10.15	3	3	4	10／30	10
10.45 11.15	7	6	6	19／30	19
11.45 12.15	1／20	1／15		2／35	2
12.50 13.15	1	1	1／15	3／35	3
13.50 14.15	16	8	7	31／30	31
14.45 15.15	15	11	13	39／30	39
15.45 16.15	15	16	15	46／30	46
16.45 17.15	17	24	19／6	60／26	69
17.41 18.15	41	19／3		60／13	138
18.28 19.15	32	28／7		60／17	106
19.32					



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
4.15 4.45	P3-1	Ⓟ 粒度
8.15 8.45	P3-2	Ⓟ 粒度
9.15 9.45	P3-3	Ⓟ 粒度

室内試験（　）

掘進月日

2/25

2/27

ボーリング柱状図

調　査　名　新日明かんびん資源化センター地質調査及び測量業務委託

ボーリングNo										

事業・工事名

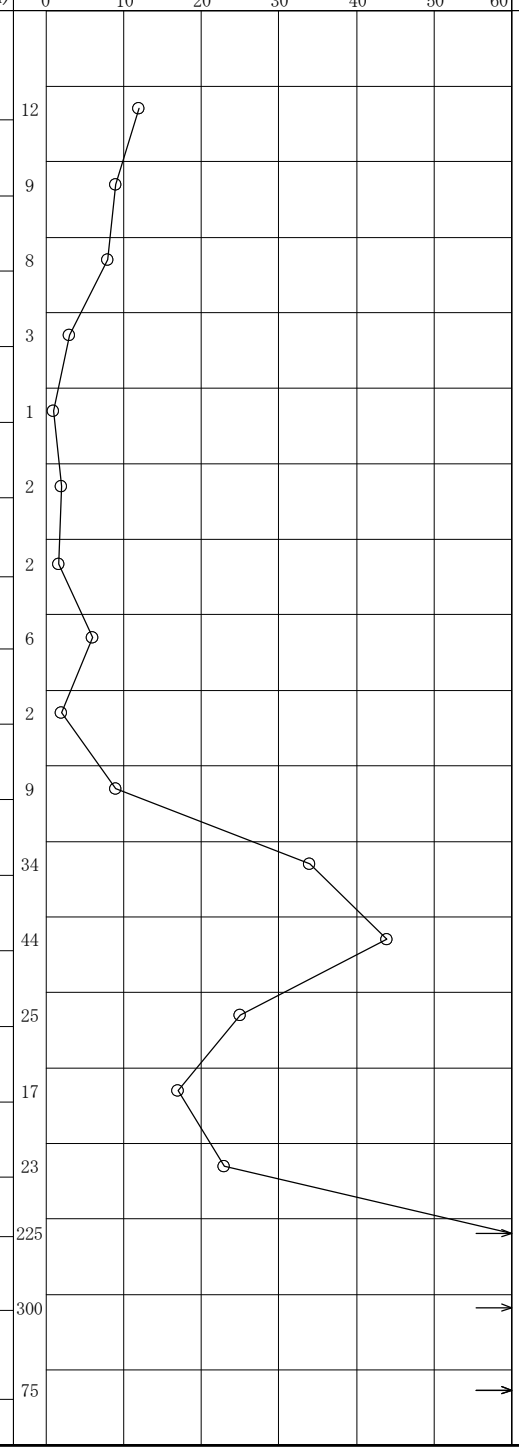
シートNo

ボーリング名	No.4	調査位置	福岡県北九州市小倉北区西港町97番地の3							北緯	33° 54' 56.5"
発注機関	北九州市環境局			調査期間	平成 29年 2月 22日 ～ 29年 2月 24日					東経	130° 52' 19.3"
調査業者名	株式会社協和コンサルタンツ北九州営業所 電話（093-663-1686）	主任技師	中村　学	現場代理人	小林壽夫	コア鑑定者	小林壽夫			ボーリング責任者	伊藤誠一
孔口標高	2.59m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	東邦地下工機製　D0-C型	ハンマー落下用具　半自動型
総掘進長	18.00m								エンジン	ヤンマー製　NFD-10型	ポンプ　東邦地下工機製　BG-3C型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	0.99	1.60	1.60		埋土・礫混り砂	黄褐灰	中位		細砂～中砂で、径5～20mmの円礫を混入する。	
2					埋土・砂	黄褐灰	緩い		細砂主体で、貝殻片を混入する。 3m以深には径5～10mmの円礫を混入する。 若干シルトをまじえる。 やや含水比が高い。	2/24 2.40
3	-1.11	2.10	3.70							
4	-1.91	0.80	4.50		埋土・シルト混り砂	暗灰	非常に緩		細砂主体で径5～10mmの円礫を混入する。貝殻片を含む。	
5					シルト質砂	暗灰	非常に緩い		シルトを多量に含む細砂～極細砂で、貝殻片を混入する。 含水比が高い。	
6	-4.01	2.10	6.60							
7	-5.21	1.20	7.80		シルト	暗灰		非常に軟	均質なシルトで、貝殻の細片をわずかに含む。 含水比が高く非常に軟弱である。	
8					シルト混り砂	暗灰	非常に緩い～緩い		細砂主体で、貝殻片を混入する。 シルトの薄層を挟む。 全体に含水比が高い。 下部の9m以深ではシルト分が多くなる。	
9	-7.31	2.10	9.90							
10	-8.11	0.80	10.70		礫混り砂	暗灰	緩い		シルト混り細砂で、含水比が高い 径5～20mmの亜円礫～亜角礫を混入する。	
11					シルト混り砂礫	黄褐	密な		シルト混り細砂～中砂と径10～30mmの亜円礫からなる。 含水比が高い。	
12										
13	-10.81	2.70	13.40							
14					強風化頁岩	淡灰			強風化され、粘土化が進む。 凝灰質の頁岩で、固結質シルト状コアで採取される。 コアは指圧で容易に破砕できる。	
15	-13.11	2.30	15.70							
16					風化頁岩	淡灰			凝灰質頁岩で、軟質な短柱状コアで採取される。 ハンマーの軽打で破砕できる。	
17										
18	-15.41	2.30	18.00							

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	3	4	5	12/30	12
1.45					
2.15	4	3	2	9/30	9
2.45					
3.15	2	3	3	8/30	8
3.45					
4.15	1	1	1	3/30	3
4.45					
5.15	1/30			1/30	1
5.45					
6.15	1/15	1/15		2/30	2
6.45					
7.15	1/20	1/15		2/35	2
7.50					
8.15	1	2	3	6/30	6
8.45					
9.15	1	1/20		2/30	2
9.45					
10.15	2	3	4	9/30	9
10.45					
11.15	13	10	11	34/30	34
11.45					
12.15	14	15	15	44/30	44
12.45					
13.15	11	9	5	25/30	25
13.45					
14.15	5	6	6	17/30	17
14.45					
15.15	6	7	10	23/30	23
15.45					
16.15	60/8			60/8	225
16.23					
17.15	60/6			60/6	300
17.21					
18.15	17	26	17/4	60/24	75
18.39					



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
3.15	P4-1	Ⓟ	粒度	2/22
3.45				
4.15	P4-2	Ⓟ	粒度	
4.45				
5.15	P4-3	Ⓟ	粒度	
5.45				
9.15	P4-4	Ⓟ	粒度	
9.45				
10.15	P4-5	Ⓟ	粒度	
10.45				
				2/23
				2/24